

外傷性遷延性意識障害患者の栄養アセスメントの評価

林 淳子¹、五十嵐 祐子¹、長嶺 義秀²、藤原 悟³

¹広南病院 栄養管理部、²広南病院 東北療護センター、³広南病院 脳神経外科

【目的】 外傷性遷延性意識障害患者の栄養アセスメントを実施して栄養状態を把握し、現在の栄養療法を評価する。

【方法】 2014年9月に入院していた外傷性遷延性意識障害患者の31例について、身体計測、栄養摂取状況、血液検査、基礎エネルギー消費量 (BEE) 等の栄養アセスメントを実施し栄養投与ルート別に栄養状態を比較した。

【結果】 31例のうち、男性は23例、平均年齢 45.1 ± 17.1 歳、平均BMI 19.9 ± 2.3 、経口摂取8例、経腸栄養23例であった。経口摂取群、経腸栄養群の2群で比較すると、広南スコアの平均は経口摂取群21.9点、経腸栄養群58.8点 ($P = 0.0406$)。平均BMIは経口摂取群 20.5 ± 2.4 、経腸栄養群 19.6 ± 2.3 ($P = 0.4087$)。平均年齢は経口摂取群 33.8 ± 13.3 歳、経腸栄養群 49.1 ± 16.7 歳 ($P = 0.0259$) で経口摂取群の方が若かった。投与量がBEEを上回っている割合は経口摂取群37.5%、経腸栄養群21.7% ($P = 0.3802$) であった。血液検査データではAlb、TP、CRP値に差はなかったが、Hbの経腸栄養群で有意に高かった。(経口摂取群 12.5 ± 0.7 g/dl、経腸栄養群 14.4 ± 0.4 g/dl ($P = 0.0256$))。また、上腕周囲長 (AC)、上腕皮下脂肪厚 (TSF)、上腕筋囲 (AMC) をJARD2001による日本人の身体計測基準値と比較した結果、経口摂取群では男性AC93%、TSF127%、AMC88%。女性AC117%、TSF176%、AMC104%。経腸栄養群では男性AC96%、TSF126%、AMC91%。女性AC98%、TSF87%、AMC101%であった。

【結論】 現在の栄養療法で患者の栄養状態はほぼ適切に維持されていると考えられたが、今後アセスメント項目については微量元素の計測を追加するなどアセスメントの実施内容や頻度について検討が必要である。